
平成 21 年度卒業研究発表会要旨集の巻頭にあたって

白戸 秀 (筑波大学生物学類 4 年)

思い返せば、四年間、随分早く過ぎ去ったように感じます。

初めての筑波、春霞の彼方に筑波山を眺め、思わず登ってしまった一年生の頃を懐かしく思い出します。思わず登ってしまうのは今でも相変わらずです。私の筑波での思い出は、春風のそよそよ吹く筑波山や、冬の夜空に真っ黒にそびえる筑波山と切り離せないものです。

ところで、私は生物学類の交換留学制度を利用し、三年生の夏から四年生の夏まで約一年間、イギリスに留学をしました。一年を経て帰国してみると、まさに「浦島太郎」状態。私の知らないうちに四年生は既にすっかり卒業研究を始めており、それぞれのテーマを持って研究をしていました。驚いたことは、私が出発した三年生の夏までには考えられなかったような、「研究の話」が、それとない会話にしばしば登場するようになったことです。些細なことではありますが、私が日本を離れた三年生から四年生の間に、友人たちはしっかりステップアップを遂げたものだと感じました。私たちは、少しずつ確実に進歩しているのだと思います。

さて、そんな風に少しずつ進歩している私たちの、表紙が素敵な卒業研究要旨集をばらばらとめくれば、ずらりと並んだ卒業研究タイトルは実に多様です。卒業研究発表会は、全体として見たとき、筑波大学生物学類における研究分野の広さを象徴するものでしょう。そして、一つ一つの発表はそれぞれの卒業研究の成果であり、同時に、筑波大学で私たちが学んだことの集大成でもあります。私たち四年生の、華麗なる有終の美を目撃し、雄姿を心に深く焼き付けてください。

また、生物学類生にとってこの発表会は、研究室の研究内容を直接知ることができるよい機会です。興味のある発表はもちろん、自分の興味と違う発表も見に行くことをお勧めします。思いがけない発見や出会いがあることでしょう。

最後に、卒業研究発表会の準備、運営に力を尽くしてくださった皆様に感謝します。ありがとうございました。生物学類が一堂に会する場で、研究発表を行えることを嬉しく、そして、誇りに思います。

Communicated by Kensuke Yahata, Received February 5, 2010.